

防災教育

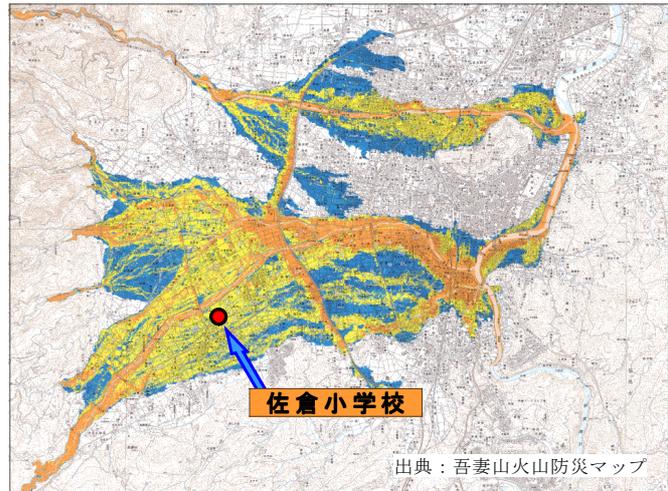
福島市立佐倉小学校

ホームページ掲載資料

「学校における防災教育の実際」

I 想定される災害

- ・ 吾妻山火山防災マップから
(積雪時のマグマ噴火の際、融雪による火山泥流は、50cm～2mの最大流動深が想定)
- ・ 大雨による荒川の氾濫による水害
(台風や集中豪雨により、荒川の水位が上昇し氾濫することが想定)
- ・ 地震や火災などの緊急な災害



【大規模な融雪による火山泥流ハザードマップ】

II 本校における防災教育の実際

1 防災教育についての方針

- (1) 吾妻山の噴火も想定して日常の指導を行い、正しい知識を身に付けさせる。
- (2) 具体的な災害状況を設定した防災訓練（避難訓練・引き渡し訓練）を実施し、自ら考え、判断して行動できる態度を養う。

2 指導目標

- (1) 学校における事故防止と日常の安全な生活のために必要な知識・習慣・態度・能力を養う。
- (2) 自分や他人の生命を尊重し、学校や家庭および社会の安全に役立つことのできる態度・能力を養う。
- (3) 地震や火山の噴火等の自然災害、火災発生時に、迅速に避難し自分や他人の生命を守ることができる知識・習慣・態度・能力を養う。

3 児童に身につけさせたい力

- (1) 自然災害等の現状、原因及び減災等について理解を深め、現在及び将来に直面する災害に対して、的確な思考・判断に基づく適切な意思決定や行動選択ができる力。
(知識、思考・判断)
- (2) 地震、台風の発生等に伴う危険を理解・予測し、自らの安全を確保するための行動ができるようにするとともに、日常的な備えができる力。
(危険予測、主体的な行動)
- (3) 自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりの重要性を認識して、学校、家庭及び地域社会の安全活動に進んで参加・協力し、貢献できる力。
(社会貢献、支援者の基盤)

4 めざす児童像

- ・ 低学年…自分自身の身を守る。何をすれば良いのか判断し、行動する。
- ・ 中学年…家族や友達と一緒に、身を守るために判断し、行動する。
- ・ 高学年…事前にどんな準備をしたらよいのか家族で話し合い、的確に行動に移す。

5 防災教育年間指導計画

月	指導の重点	各教科	安全指導的行事	安全管理	家庭・地域との連携
4	・安全な登下校 ・非常時の安全行動 ・安全な廊下の歩行 (年間) ↓		・交通教室 ・避難訓練	・安全点検 ・通学路の点検 (育成会各担当)	・朝の街頭交通指導 ・通学路の点検 ・家庭の交通安全推進員委嘱 ・自転車乗車範囲の指導 (年間) ↓
5	・遊具の安全な使い方		・運動会 ・修学旅行・遠足 ・交通教室	・安全点検	
6	・雨の日の安全な歩行 ・室内での過ごし方 ・安全な自転車の乗り方 ・安全な水遊びの仕方	・減災教育事業 (5年総合)	・プール開き ・さくら防災デー ・避難訓練 (引き渡し訓練)	・安全点検 ・プール管理 ・自転車点検のすすめ	・自転車点検
7 8	・夏休みの過ごし方	・荒川探検 (4年総合)	・AED講習会	・安全点検 ・プール管理	・校外危険区域点検 ・校外補導
9	・用具や道具の安全な使い方 ・非常時の安全行動	・防災マップ作り (5年総合)	・立哨・巡回指導	・安全点検 ・プール管理	・朝の街頭交通指導
10	・校外での過ごし方	・防災マップ作り (3年総合) ・防災町探検 (2年生活科)		・安全点検	
11	・非常時の安全行動	・防災学校探検 (1年生活科) ・防災コミュニケーション (6年学級活動)	・防犯教室 ・不審者対応訓練 (教職員)	・安全点検	
12	・寒い日の遊び方 ・冬休みの過ごし方			・安全点検	
1	・雪道の安全歩行 ・安全な校内生活		・立哨・巡回指導	・安全点検	
2	・冬の安全な遊び	・荒川探検 (6年総合)		・安全点検	
3	・安全な生活のまとめ			・安全点検	

Ⅲ 今年度の取り組み

- 1 学校行事等における防災教育
 - (1) 避難訓練
 - (2) さくら防災デー
- 2 教科等における防災学習
 - (1) 減災教育事業 (5年総合)
 - (2) 防災マップ作り (3・5年総合)
 - (3) 防災学校探検・町探検 (1・2年生活科)
 - (4) 荒川探検 (4・6年総合)
 - (5) 防災コミュニケーション (6年学級活動)

Ⅳ 今後の取り組み

- めざす児童像に合った、発達段階を考慮した系統的な指導を教育計画に位置付けていく。

1. 保護者・地域と連携した「さくら防災デー」（全学年）

平成28年度「さくら防災デー」実施案

学校防災担当

1 目的

- (1) 地震や火山噴火による泥流などの非常災害に際し、生命・身体の安全を守るための必要な知識、態度・習慣を身に付ける。
- (2) 非常災害の際の対処の仕方、心構えなどについての意欲を高める。
- (3) 指示に従い、統制のある集団行動の下に規律正しく安全に避難できるようにするとともに、引き渡しカードによる緊急時下校体制を理解する。

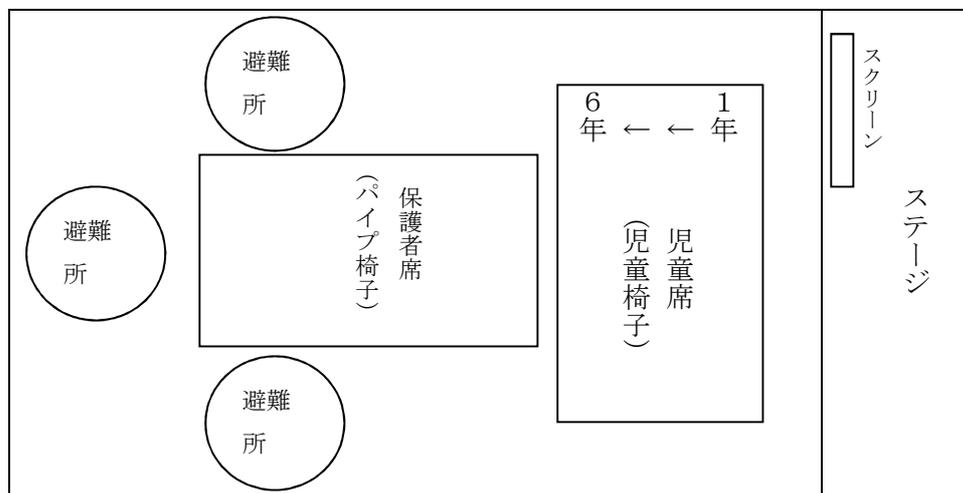
2 日時

平成28年6月25日（土）第1～3校時

3 日程

- 7:50 講師来校 体育館準備
～ 8:10 登校
8:10～ 8:20 健康観察・イスを持って移動
8:25 体育館集合完了
- 8:30～ 9:20 防災出前授業①（福島県防災専門監）
・ 地震防災についての講話（20分）
・ 避難所体験（30分）
縦割り班で3か所に分かれる。パーテーション作成、簡易トイレ作成、毛布配り、乾パン配り等を行う。
※ 縦割り班1～4班、5～8班、9～12班に分かれて活動することを、事前指導しておく。
※ 非常食の乾パンは、家庭で試食する。
- 9:20～ 9:30 休憩（溶岩・火山灰・ヘルメット・マスク等の自由見学）
- 9:30～ 9:55 防災出前授業②
・ 火山防災についての講話
※ 保護者は車内待機、または一時帰宅。
- 9:55～10:05 下校指導・休み時間
10:10～10:35 避難訓練
10:50～11:30 引き渡し訓練

4 防災出前授業配置図



※ 避難所①…1～4班、避難所②…5～8班、避難所③…9～12班（縦割り班）

5 避難訓練

(1) 想定

休み時間に吾妻山(一切経)が噴火。

1次避難所(2階)へ避難。

その後、泥流が来たため2次避難所(3階)に移動。

泥流が収まったため、体育館に移動し、保護者へ引き渡し。

(2) 訓練内容

① 児童には事前に予告し、休み時間から実施する。

※ 教室にいない場合にはその場所からの避難をする訓練となる。

② 避難の仕方については、朝の会などで事前に指導する。

ア 避難経路の確認

イ 災害時の対応の仕方

- 近くにいる教職員の指示をよく聞き、それに従って行動させる。学用品は携行させない
- 屋外にいる児童は、近くの入り口から校舎に入り下足を持って避難させる。
- トイレ等に児童がいないかを確認する。
- 「押さない」「走らない」「しゃべらない」「もどらない」を徹底させる。
- ガラスの下や近くをできるだけ通らないで避難させる。
- 状況に応じて、低学年を優先する。
- 集合場所では、素早く整列させ、人員点呼をする。
- 集合後、腰を下ろさせて無言で次の指示を待つように指導する。
- 防塵対策のため、ハンカチ等を口に当てるようにする。

③ 月曜日に各学級で事後指導を行い、反省する。

(3) 避難順序・内容

	時刻	学校側の対応	教師の指導及び行動
1 事前	朝の会など	※本部、救護所設営の準備	<ul style="list-style-type: none"> ○ 災害時の対応の仕方の指導 ○ 避難経路の確認 ○ 避難訓練に際しての心構えの指導
2 避難 訓練	10:10 1次避難	通報訓練 ☆非常ベル（10秒間） → ◎ 職員室から放送 「避難訓練。噴火です。吾妻山が噴火しました。噴火により雪解け水が押し寄せてくる危険があるので、児童はすぐに2階に避難しなさい。避難開始。」	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教頭が行う。 ※校庭はベルが聞こえないので教師が指示する。 ○ 放送をよく聞かせる。 ※ 教師が指示をしっかりと出すこと。 ○ 居合わせた児童に、避難の指示をする。 担任は2階の各教室に誘導する。 ※ 出席簿・学級旗を持つ。（担任） 1・2年 → 図工室 3・4年 → 4年教室 5・6年 → 理科室 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><最終確認者></p> <p>1F・・・・・・A教諭</p> <p>2F・・・・・・B教諭</p> <p>3F・・・・・・C教諭</p> <p>校庭、体育館・・教務（幼稚園へ連絡）</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 指定場所に児童を誘導後、人員確認をして本部へ連絡する。 ☆ 人員報告（担任→教頭→校長） ※ 本部は、2階水道場の前 第○学年○○名、避難完了しました。 ××，△△が所在不明です。 （不明の児童がいた場合は、児童の世話を隣接学年の担任に依頼。不明児童の検索）
	10:23 2次避難	◎ 2F水道前からメガホン 「噴火による泥流が流れてきました。児童の皆さんは、先生の指示に従い3階に避難しなさい。」	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学年ごとに速やかに3階へ移動する。 ①1・2年 → 家庭科室 ②3・4年 → 5年教室 ③5・6年 → 音楽室
	10:33	◎ 3F水道前からメガホン 「泥流の危険がなくなりましたので、体育館に移動します。児童の皆さんは、先生の指示に従って教室に戻り、帰りの用意を持って、体育館に移動します。引き渡し訓練を行います。」	<ul style="list-style-type: none"> ○ 帰りの用意を持って、昇降口に寄り下履きを取って体育館に移動する。 ○ 下履きは、裏返しにして各自近くに置く。
	10:35	安心安全メール配信（教頭）	
3 事後	10:40 全体指導	体育館 進行：防災担当 ◎ 校長先生のお話	

～ さくら防災デー ～



【防災出前授業】



【避難所体験① 仮設テントの組み立て】



【避難所体験② 簡易トイレの組み立て】



【避難所体験③ パーティションの組み立て】



【避難所体験④ 実際に寝てみる】



【噴石・火山灰の実物展示】



【火山泥流を想定した避難訓練】



【引き渡し訓練】

2. 防災マップ作り（3年総合的な学習の時間）

平成28年11月22日（火）第5校時
場所 3年教室 授業者 ○○ ○○

授業テーマ

自分の住む地域の特徴を知り、火山災害が起きた時の避難場所を考えるを通して、身を守るために判断し行動しようとする意識を高める授業

1 単元名 防災マップを作ろう

2 単元の目標

- ・ 地域の人や場所に関心を持ち、防災探検を通して自分の住む地域の特徴に気付くことができる。
- ・ 防災に関する学習活動を行い、災害が起きた時の対処の仕方や避難場所を知り、安全を考えて行動することができる。

3 指導計画（総時数18時間、 本時13 / 18時間）

- | | | |
|---------------------------------|-------|-----------|
| (1) 災害について知ろう | 【2時間】 | |
| (2) 火山災害・土砂災害の模擬実験を見てみよう | 【1時間】 | |
| (3) 非常袋の中身を考えよう | 【1時間】 | |
| (4) 避難所に行ってみよう（福島西学習センター・非常食体験） | 【2時間】 | |
| (5) 防災探検をして、防災マップを作る計画を立てよう | 【2時間】 | |
| (6) 防災探検をしよう | 【2時間】 | |
| (7) 探検をして気付いた事を防災マップにまとめよう | 【2時間】 | |
| (8) 分かったことを話し合おう | 【2時間】 | 本時1 / 2時間 |
| (9) 防災マップを完成させて、みんなに伝えよう | 【4時間】 | |

4 本時の目標

火山災害が起きた時に避難できる施設や、防災に関する設備を見つけた時の活動をもとに、情報を共有して各自の避難場所について考え、身を守るために判断し行動しようとする意識を高めることができる。

5 防災教育における身につけさせたい力

- ◎ 火山災害や水害が起こった時に危険な場所があることや、非常時に避難できる施設があることを理解する力。（知識・理解）
- 災害時に、児童がその場の状況をとらえて、家族や友達と一緒に身を守るために判断し行動する力。（思考・判断）

6 展開

学 習 活 動・内 容	時間	○ 指導上の留意点 ※評価 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; display: inline-block;"> テーマにかかわる手だて </div>
<p>1 防災探検をして、分かったことや気付いたことなどを、伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東方面では、キャノンがありました。第一公園の近くには、工場などの大きな建物も多いです。 ・ 南方面は、住宅が多いです。佐倉小学校やいちい本社が近くににあります。 ・ 北西方面は、田んぼが多く荒川も流れていて、大雨の時は危険です。 ・ 西方面は、西信中学校や福島西学習センター、南東北病院があります。 	1 2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 東方面、南方面、北西方面の3グループに分かれて探検したことをもとに発表する。西方面については、全員で福島西学習センターに行った時の事を想起させる。 ○ 防災探検で注目した、「頑丈な建物」「危険な場所」「防災に関するマーク」を確認し、視点に沿った発表ができるようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; display: inline-block;"> <p>○ 防災探検をして分かったことを全体で共有し、1つの大きなマップにすることで地域の特徴を知り、実際に火山災害が起きた時の避難場所を考えようとする意欲を高める。</p> </div>
<p>2 本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>㊦ 火山災害が起きた時に、自分がひなんする場所はどこだろうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家の人と一緒にいる時は、車で避難できるけれど… ・ 通学中に災害が起きたら ・ 家で留守番をしている時に起きたら ・ 友達と遊んでいる時に起きたら 	8	<ul style="list-style-type: none"> ○ 状況に応じた避難場所の選択の必要性を感じさせることで、めあてを設定できるようにする。 ○ 吾妻山で融雪型火山泥流が起きた場合に、短時間で泥流が押し寄せる可能性があることをふまえ、身を守るために判断し行動する必要性を感じられるようにする。
<p>3 避難場所について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通学中、学校の近くにいる時は学校に急いで避難しよう。 ・ 一人で留守番をしている時は、ぼくは近くの西信中に避難しよう。 ・ 友達と遊んでいる時は、一緒に行動して近くの頑丈な建物に入れてもらおう。 	1 5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 防災マップを参考に、「頑丈な建物」「近い建物」の視点で考えさせ、ワークシートに書かせるようにする。その後、探検グループ毎に話し合うようにする。 ○ 全体で話し合い、避難場所が一人一人違っていることや、その時の状況に応じて判断し行動することが大切であることを確認する。 <p>※ 防災探検の発表を聞いて分かったことをもとに、非常時の行動の仕方について、友達と一緒に考えていたか。</p> <p style="text-align: right;">(ワークシート、発表)</p>
<p>4 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 避難場所は、一人一人違うことがわかりました。 ・ いつ災害が来てもいいように避難場所を考えておくことが大事だと思いました。 ・ 自分だけでなく、家族とも相談しておいた方がいいと思いました。 	1 0	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習を通して分かったことをワークシートに書くようにする。 ○ 意図的指名をし、よい考えを全体で共有できるようにする。 ○ 避難した後の行動について考えさせ、次時に繋げる。

3. 「青少年赤十字防災教育プログラム」の活用（6年学級活動）

平成28年11月22日（火）第5校時

場所 6年教室 指導者 ○○ ○○

授業テーマ

防災コミュニケーションワークショップを体験することを通して、災害が起こった際に必要なコミュニケーション能力の大切さに気付くことができる授業

1 活動名

災害時のコミュニケーション

2 活動の目標

災害時に「自分のいのちは自分で守る」力に加えて、まわりにいる人々が協力して問題解決をしていく必要があることに気づき、ノン・テクニカル・スキルを身につけることができる。

※ ノン・テクニカル・スキル

航空業界で開発されたチーム力を高める訓練のCRM（クルー・リソース・マネジメント）で高められるスキル。操縦などの個人の技術の「テクニカル・スキル」に対し、次の5つのスキルで構成される。

- ① コミュニケーション
- ② 状況把握
- ③ リーダーシップ（チーム作り）
- ④ 問題解決
- ⑤ タスク（役割）配分

<参考資料> 青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのち ひろめるぼうさい」

3 指導計画

- 事前 防災に関するアンケートを行う。
- 本時 学級活動（2） 災害時のコミュニケーション
- 事後 普段の集団生活の中で学習したことを生かして実践する。

4 本時の目標

災害で問題が起こった時に、協力して課題を解決するために必要なことに気づき、意識して行動することができる。

5 防災教育における身につけさせたい力

- 協力して問題を解決していくために必要なスキルが分かる力。 （知識・理解）
- ◎ 災害が起こった際や避難した場所において起こる問題を解決するための方法を考え、行動に移すことができる力。 （思考・判断）

6 展開

学習活動・内容	時間 (分)	○指導上の留意点 ※評価 「 テーマにかかわる手だて 」
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <p>(1) 起こる可能性のある自然災害を考え、そのときの対応を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火山泥流や洪水で荒川がはんらんする。 ・家が危険な時は避難所に逃げる。 <p>(2)本時の課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>㊦ 災害が起こった時、みんなで協力するためにはどうすればよいだろう。</p> </div>	5	<p>○ 写真などの資料を見せて、災害時に自分たちがおかれる可能性がある状況をイメージできるようにする。</p> <p>○ 集団下校の時や避難所に集まった時に問題が起こった際、「協力」ということは何を考えることかを話し合い、課題をもって活動ができるようにする。</p>
<p>2 ドローイングチャレンジを行う。</p> <p>(1) ルールを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利き手の人差し指だけでペンを支える。 ・もう片方の手は使ってはいけない。 <p>(2) 1回目の図形(☆)をかく。</p> <p>(3) 描いた絵を審査する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間内にはできた。 ・バランスよく指を当てたので、線が曲がらなかった。 ・動く方向について声をかけ合った。 <p>(4) 2回目の課題を聞き、作戦会議をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーを決めて描いてみよう。 ・困ったら「待って」といって止めよう。 <p>(5) 2回目の絵(カメ)を描く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横向きのカメを描こう。 ・どっち向きにする？ 	30	<p>○ ルールシートを配付してルールを確認し、グループで協力する必要があることを意識させる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>○ ①線がはみ出していないか、途切れていないか。②時間内で課題を終えたか。③みんなで協力して描いたか。の3点について自分たちで審査させる。評価が高かったグループに気を付けた点を発表させて、協力するためのポイントを共有する。</p> </div> <p>※ 問題を解決するために協力するための方法を話し合うことができたか。 (発表・ふり返しシート)</p> <p>○ 「カメ」という課題だけを伝えることで、情報を共有する必要性が生まれるようにする。</p>
<p>3 本時のまとめをする。</p> <p>(1) ふりかえりシートに記入して、どんなことが必要なかをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで話し合うこと ・分担を話し合うこと ・話し合いで決めること ・解決方法を出し合うこと ・状況を確認すること 	10	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>○ 5つのスキルに該当する内容を記入した児童に発表させながら、協力して問題を解決するために必要なスキルを説明するとともに、そのスキルを意識していたかを振り返らせる。</p> </div>

4. 関係機関と連携した学習

東北大学の出前授業 「減災ポケット『結』プロジェクト」

【活動の実際】

子どもたちが、減災意識を高め、自分の身を守ることを自分で守ることができるようになることを目的に「減災ポケット『結』プロジェクト」を行った。

- ① 「減災スタンプラリー」災害に対する考え方が見えてくるスタンプラリーを行った。
- ② 自分ならどう行動するかを考えながらグループワークを行った。
- ③ 互いの考えを共有し、よりよい行動について考えを深めた。
- ④ 減災についての知識を高めるためのツールとして開発された「減災ポケット『結』(ハンカチ)」の活用の仕方を学んだ。



① 【減災スタンプラリー】



② 【グループワーク】



③ 【考えを共有する】



④ 【減災ポケット『結』
(ハンカチ)】

福島河川国道事務所 磐梯山噴火記念館の出前授業

【活動の実際】

吾妻山の火山噴火に備えて、火山防災に関する正しい知識を習得するために「吾妻山の噴火に関する出前授業」を行った。

- ① 火山の仕組みを学ぶ実験を行った。
- ② 山の模型に空気を送り込み、粘土で作った小石に見立てたものを飛ばせて、噴石の危険性を学んだ。
- ③ 災害に備える、できるだけ早く避難する、大切な建物に逃げ出す方法を学んだ。
- ④ 土石流がどのように発生するかを知り、住宅などにどのような被害があるかを知った。



① 【火山の仕組み】



② 【噴石の実験】



③ 【災害に備える】



④ 【土石流の模型実験】

5. 各学年の取り組み

1年 生活科

- 1 本校のめざす児童像（低学年）
自分自身の身を守る。
何をすれば良いのか判断し、行動する。
- 2 単元名 「あんぜんをまもるものを見つけよう」
- 3 めざす児童像に迫るための活動

(1) 防災について知る。

防災について関心をもたせるために、今までに学校で行ってきた避難訓練や防災訓練などを思い出させ、そのほかの災害にはどんなものがあるのかを考えさせた。地震や火事、台風、火山の噴火などのほかに、身近な荒川が氾濫した例を挙げ、関心を高めた。

(2) 安全を守る物を見つけ、気付く。

安全を考えて行動することができるようにするために、全員で校内を回り、校内にある自分たちの安全を守る物や設備を調べた。校内にはたくさんの消火器や消火栓、防火扉、防火シャッターなどがあることを知り、災害が起きた時に自分たちの命を守るために、様々な物が備えられていることやいざという時にどのように行動したらよいかに気付くことができた。



【消火器がたくさんあることに気付く】



【シャッターや扉に初めて気付く】

2年 生活科

- 1 本校のめざす児童像（低学年）
自分自身の身を守る。
何をすれば良いのか判断し、行動する。
- 2 単元名 「町たんけん」
- 3 めざす児童像に迫るための活動

(1) 防災について知る。

災害について知り、災害が起きたときどうするかについて考えた。話し合う中で、じょうぶな高い建物に避難する必要があることや、自分たちの近くにある避難できそうな建物に気付くことができた。

(2) 災害から命を守るために大切なことを考える。

地域の避難所になっている福島西学習センターを見学して話を聞いた。その施設や設備、避難所の役割、災害によるさまざまな危険について知り、災害の種類による避難の仕方について考え、正しい行動をしようとする意欲が高まった。



【防災の説明を聞く】



【非常食の試食】

4年 総合的な学習の時間

- 1 本校のめざす児童像（中学年）
家族や友達と一緒に、身を守るために判断し、行動する。
- 2 単元名 「荒川探検」
- 3 めざす児童像に迫るための活動

(1) 荒川について知る。

学区内を流れる荒川は、水質日本一であり、周りも豊かな自然に恵まれている。荒川についてさらに知るために、グループごとに興味を持ったことをもとに課題を設定し、調査を行った。生き物や水質などについて調べ、荒川をさらに身近に感じることができた。

(2) 荒川の危険性について知る。

雨の後の荒川は、様子が一変し、水量が一気に増え流れも激しくなる。河原に下りることはできないので、橋の上から様子を観察し「あばれ川」と呼ばれる理由を実感することができた。



【水のきれいさを調べるグループ】



【雨の後の荒川の様子】

5年 総合的な学習の時間

- 1 本校のめざす児童像（高学年）
事前にどんな準備をしたらよいのか家族で話し合い、的確に行動に移す。
- 2 単元名 「わたしたち佐倉防災隊！」
- 3 めざす児童像に迫るための活動

(1) 佐倉地区の防災の取組について調べる。

佐倉地区を歩き、佐倉地区にはどんな防災の設備があるのか、地区の人々は災害に備え、どんな準備や取組をしているのか、情報を収集した。

さらに、収集した情報を整理し、今後安全に過ごすために、どのような準備や活動をしていけばよいのかを話し合った。

(2) 事前にどんな準備をしたらよいのか家族で話し合う。

実際に避難する時には、どんな準備をしたらよいのか家族と一緒に話し合った。

避難場所、避難方法、避難の仕方、避難時に持ち出すものについて家族で確認し合い、災害に備えた。



【集めた情報を整理する】



【家族で話し合う】